

# 一般社団法人 日本生態学会

## 平成 29 年度第 3 回通常理事会

1. 日時：2017 年 12 月 16 日（土）13:00～17:30
2. 場所：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス会議室 B
3. 出席者：
  - ・理事会構成員（20 名・定足数 10 名以上）  
（理事）可知直毅、占部城太郎、陀安一郎、木庭啓介、北村俊平、久米篤、伊東明、吉田丈人、日浦勉、大澤剛士、辻和希、鈴木まほろ、宮下直、佐竹暁子、近藤倫生、別宮有紀子、吉田正人（全理事中 17 名参加）  
（欠席理事）長谷川雅美、湯本貴和、川北篤
  - ・監事：竹中明夫、岡部貴美子
  - ・オブザーバー：中野伸一、山本智子、小池文人、仲岡雅裕
  - ・事務局：鈴木晶子、橋口陽子
4. 議事概要：

定足数 10 名を超える 17 名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第 42 条に従い可知直毅会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第 46 条に則り、可知直毅会長、竹中明夫監事、岡部貴美子監事とし、議事録作成者は陀安一郎理事が担当することとした。

### 報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）
  - ・ 資料 1 に基づいて、学術振興会に平成 30 年度科研費（国際情報発信力強化 A・研究成果公開発表）計画調書など応募書類一式を送付した（11 月 8 日）ことなど、陀安専務理事より庶務報告 10 件、会計報告 12 件の報告があった。
  - ・ 2017 年の会計執行状況について収入は例年並み、支出は大会運営委託と Web 選挙初期費用を国際文献社に支払ったこと以外は例年並み、また宮地基金について残額が約 68 万円であり、2 年後（神戸大会の時の受賞）には賞金が足りなくなる可能性があるため早急な検討が必要との報告があった。
2. Ecological Research 編集委員会報告
  - ・ 資料 2 に基づいて久米編集長より、札幌大会 ER シンポジウム・フォーラムの紹介、特集企画のことなどの報告があった。
  - ・ Ecological Research 編集スタッフの給与（時給）について 1 年目 1400 円、2 年目以降 1600 円とすることが確認された。

### 3. 日本生態学会誌編集委員会報告

- ・ 資料 3 に基づいて伊東編集長より、編集状況及び刊行状況の報告があった。

### 4. 保全生態学研究編集委員会報告

- ・ 資料 4 に基づいて小池次期編集長より刊行状況及び編集状況の報告があった。

### 5. 大会準備状況報告

- ・ 別紙資料に基づいて山本大会企画委員長より **ESJ65** の進捗状況、外部委託の状況、現段階で見えている課題などの報告があった。
- ・ 外部委託については負担軽減のところもあるが、システムがわかりにくくて問い合わせが多い。今後の大会運営改革と合わせてシステム改善を検討していく。
- ・ 書店と出版社の間で割引販売に関して問題となる場合があるので、注意が必要であることが示された。
- ・ ニュースレター43号大会案内に「障害者差別解消法」の記載を入れた。今後大会規則に加えるかは執行部で検討することになった。

### 6. 各種委員会報告（キャリア支援・電子情報）

#### <キャリア支援>

- ・ 別紙資料に基づいて別宮理事より男女参画学協会シンポジウム、男女共同参画実態調査報告、私立中高理系教員選考会の主催となったことの報告があった。

#### <電子情報>

- ・ 竹中委員長より学会サーバーのクラウドサービスへの移行の進捗状況について、VPSを選定し、現在サーバーに入っているデータの移行準備中、早くて1月に移行できる見通しとの報告があった。

### 7. 学会賞選考委員会報告

- ・ 資料 6 に基づいて日浦理事より各賞選考結果の報告があった。
- ・ 選考委員会にて大島賞の位置づけが曖昧という議論が繰り返されているが、今回は宮地賞取得後業績評価したとの報告があった。また「中堅」という位置づけが大きいとの意見があった。
- ・ 生態学会に対する貢献をどのように表記するか議論した。

### 8. 会長候補および代議員選挙報告

- ・ 資料 7 に基づいて木庭理事より次々期会長および次期代議員選挙結果が報告され、12/17 より代議員は新体制になることが確認された。

## 9. INTECOL・EAFES 報告

- ・ 資料 8 に基づいて中野オブザーバーより **EAFES2018** 進捗状況、プログラム・シンポジウム案の報告があった。参加費 28,000 円（学生は約半額）くらいに設定する予定。
- ・ 中野オブザーバーより **INTECOL**にて各国学会長会議に参加したことが報告された。

## 10. 3 英文誌合同出版進捗状況報告

- ・ 資料 9 に基づいて久米理事よりこれまでの経緯が紹介され、**2019** 年よりワイリーから出版されるようになることが報告された。製版・出版社とのやり取りを生態学会で一元化し、今後 3 誌合体の編集体制を作ることが確認された。一方、**Ecological Research Monographs**（書籍）は生態学会とは直接関係がないため **Springer** から継続して出版されるが、学会としての協力も重要であることなどが報告された。
- ・ **Springer** への契約解除通知書について一部修正して提出することが承認された。

## 11. その他（生科連報告）

- ・ 資料 10 に基づいて宮下理事より国際生物学オリンピック、高等学校の生物教育における重要用語の選定、国立自然史博物館の設立、生物系学会の合同大会について報告があり、生態学会として生物学オリンピックに 10 万円寄付することが承認された。

## 審議事項

### 第 1 号議案 日本生態学会功労賞について

- ・ 資料 11 に基づいて陀安専務理事より矢原徹一氏・竹中明夫氏・巖佐庸氏・菊沢喜八郎氏の 4 名の推薦が理事からあったことが説明され、竹中氏からは辞退の申し出があったため矢原徹一氏・巖佐庸氏・菊沢喜八郎氏の 3 名を理事会として推薦することが全会一致で承認された。

### 第 2 号議案 委員の承認について（ER・保全・琵琶湖賞運営委員）

- ・ 資料 2 に基づいて久米理事より新編集委員の提案があり全会一致で承認された。
- ・ 資料 12 に基づいて小池保全誌次期編集長より新編集委員の提案があり全会一致で承認された。
- ・ 資料 12 に基づいて占部副会長より琵琶湖賞運営員会候補者の提案があり全会一致で承認された。

### 第 3 号議案 保全誌・生態誌冊子廃止案について

- ・ 資料 13 に基づいて北村理事より保全誌・生態誌収支状況と冊子体廃止時の収支

予測の説明があり審議し、英文誌3誌合同出版や科研費採択結果など不確定要素があるため、2年後くらいを目安に再検討することが全会一致で承認された。

#### 第4号議案 地区会費還元金の扱いについて

- ・ 資料14に基づいて北村理事より地区会費現状と各地区へのアンケート結果の説明があり、地区への還元金を会費収入の6%、50%は均等・50%地区人数比配分とすること、開始時期は2020年からとすることを各地区会へ提案することが全会一致で承認された。またこのことは、札幌大会の総会で説明する必要があることが確認された。

#### 第5号議案 入会・会費規則改正について

- ・ 資料15に基づいて北村理事より入会および会費規則改正案の説明があり全会一致で承認された。2017年の総会で承認された賛助会員の会費設定については、2018年の総会にて基本会費を設定しない形に再改定を行う必要があり、2018年1月から新設定になることがかえって困難を招く。そのため、2018年の総会で事後承認を得るということで、再改定案の運用を3ヶ月間前倒しで行う。仮に総会で承認が得られない場合は、遡って検討をすることが承認された。
- ・ 3 英文誌合同出版開始時の英文誌冊子購読費について執行部で今からシミュレーションしていくことが提案された。

#### 第6号議案 大会改革案について

- ・ 資料16に基づいて吉田丈人理事より経過報告と大会改革案の説明があり、シンポジウムや自由集会を新たな形式で行う等の大きな方針はこの提案で進めることが全会一致で承認された。

#### 第7号議案 寄付金等取扱規定について

- ・ 資料17に基づいて陀安専務理事より寄附金等取扱規程案の説明があり全会一致で承認された。記載は「寄附」で統一する。

#### 第8号議案 宮地賞について

- ・ 資料18に基づいて陀安専務理事より宮地賞賞金の今後について説明と提案があり審議した結果、これまで寄附された資金（宮地基金・大島基金・鈴木基金）を集約して「賞準備金」とし各賞の賞金に充てることが提案され、その提案を含め再検討し、新案を作成して次回理事会にて再度審議することになった。

#### 第9号議案 学会各賞規則改正について

- ・ 資料19に基づいて陀安専務理事より学会各賞規則改訂案が提案され、「基金」を「賞準備金」に変えることが全会一致で承認された。

#### 第 10 号議案 学会財政改革について

- ・ 資料 20 にもとづいて陀安専務理事より東京大会総会で報告された学会財政改革についての進捗状況説明があり、「7. この改革案は札幌大会総会で決議し、2019 年 1 月より施行する。」としていたが、英文誌出版状況など学会財政の骨幹に関する状況が大きく変化することを鑑み、実施可能な項目については順次実施し、一部のさらなる検討を有する内容（財政改革項目 1、3、5）については、引き続き検討することが全会一致で承認された。

#### 第 11 号議案 JST CRDS による研究企画案について

- ・ 資料 21 に基づいて吉田丈人理事より経緯の説明があり、主に生態系サービスを専門とする生態学会員に意見交換会に参加を依頼、WS に学会から代表者として占部副会長が参加することが全会一致で承認された。

#### 第 12 号議案 Ecological Research データペーパーの管理体制の整備について

- ・ 資料 22 に基づいて仲岡 ER 副編集長より説明があった。予算状況として 1 本 5 万円までの金額なら対応できると JaLTER に回答することが全会一致で承認された。
- ・ データペーパーの管理体制について、次回の理事会で大澤理事が案を提案する予定であることが示された。
- ・ このやり方は、Wiley へ移行する時に再度検討しなおす必要があることが確認された。

#### 第 13 号議案 分子生物学会・生態学会の連携案について

- ・ 資料 23 に基づいて占部副会長より説明と提案があり分子生物学会との連携を進めていくことが全会一致で承認された。

#### その他

##### 1. 将来計画専門委員会からの提案について

- ・ 資料 5 に基づいて辻理事より提案があった。
- ・ 「1.大会の一層の日本語バリアフリー化」については大会あり方検討部会と連携して進めることが確認された。
- ・ 「2.大型予算獲得のため生態学会が一丸となってすべき努力」については文科省環境エネルギー課との連携、科研費基盤 A や S に生態学者が積極的に応募を促すなどの意見があった。

##### 2. 若手支援について

- ・ 大澤理事より生態学を始めたばかりの人たちへ支援や生態学の面白さを伝えるな

どの必要性が提案され、大会中に著名な研究者と若い人たちが交流する機会をもつパーソナルメンター制を始めること等を理事会としても支援することが確認された。

**閉会**：以上の議事を終え、17時30分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

平成29年12月16日

会 長 : 可知 直毅 ⑩

監 事 : 岡部貴美子 ⑩  
竹中 明夫 ⑩